

奥州市立病院・診療所改革プラン【改訂版】点検・評価報告
(平成 28 年度実績)

1	医療局全体にかかる点検・評価	P1
2	総合水沢病院にかかる点検・評価	P3
3	まごころ病院にかかる点検・評価	P5
4	前沢診療所にかかる点検・評価	P7
5	衣川診療所にかかる点検・評価	P9
6	衣川歯科診療所にかかる点検・評価	P11

平成 29 年 11 月

奥州市医療局

平成28年度 奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価

施設名	医療局全体
-----	-------

I 運営にかかる評価

プラン		取組状況と内部評価	運営評価委員会における評価
大項目	中項目		
再編・ネットワーク化 (プランP19～20)	市立病院及び市立診療所の再編・ネットワーク化	平成28年5月に前沢診療所を再開するにあたり、オーダリングシステムを総合水沢病院と繋ぎ、医療情報の共有体制の整備を進めた。	●オーダリングシステムや契約・購入に関するシステム整備を進めている点は評価できる。 ●前沢診療所と水沢病院をネットワークで繋いだ点を評価する。胆江地域全体の医療介護等の連携を図るICTの活用についても検討してほしい。 ●新市立病院、まごころ病院について、国が求めている「公的医療機関等2025プラン」に準じた計画策定が望ましい。
	新市立病院の建設にかかる検討	平成29年1月に新市立病院建設準備室を医療局内に設置し、基本構想・基本計画にかかるコンサルタント業者の選定など、新市立病院にかかる準備・検討を進めた。	●新市立病院については、先日有識者会議が開催されたところではあるが、新病院に求められる機能について、地域の中における役割分担、連携体制について、関係機関・団体との間で、より具体的な検討、調整が必要と思われる。 ●新公立病院改革プランは、逐次、地域医療構想との整合性を確保するためにブラッシュアップすることが求められている。したがって、新病院建設は、そのような新公立病院改革ガイドラインにおいて病床機能のあり方を始めた地域医療構想との整合性が確保されていることが条件とされている。この点を明確にしておく必要がある。
経営の効率化 (プランP21)	安定的な医師及び医療スタッフの確保	平成28年4月に医療局経営管理部内に医師確保推進室を設け、医師確保対策の強化を講じた。 総合水沢病院の整形外科、前沢診療所及び衣川歯科診療所へ医師又は歯科医師の着任を図り、休止していた前沢診療所を平成28年5月から再開すると共に、前所長退職後の衣川歯科診療所に新所長を迎えることが出来た。	●医師確保推進室を設置し、医師、歯科医師を採用したことを評価する。奥州市として医師、看護師等の医療従事者確保についてさらに検討してほしい。
	効率的な業務運営体制の整備	公立病院の事務職員は、市の人事ローテーションで病院に数年間の配属となるが、医療経営の専門性の高まりから、専門的人材が必要であるため、翌年度募集における病院事務職員の採用の検討を進めた。(平成29年度実施)	●病院事務職員の専門的人材育成に力を入れている点を評価する。 ●病院事務局の強化は自治体病院の課題でもあるため、専門知識の蓄積が可能となる今後の人材育成に期待したい。
	経費の節減	平成28年4月に医療局経営管理部経営管理課内に財産管理室を設け、医療局各施設で行っていた契約・購入等の業務について、医療局として一体的・効率的な契約・購入が行えるよう整備を進めた。	

Ⅱ 収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位: 百万円

区分	年度	28年度			
		プラン	実績	増減	増減率
経常収益 (A)		5,251	5,196	-55	-1%
医業収益		4,153	3,861	-292	-7%
入院収益		2,198	2,006	-192	-9%
外来収益		1,588	1,479	-109	-7%
その他医業収益		368	375	7	2%
医業外収益		1,098	1,335	237	22%
特別利益 (B)		1	12	11	1100%
経常費用 (C)		5,444	5,220	-224	-4%
医業費用		5,245	5,047	-198	-4%
給与費		3,110	3,029	-81	-3%
材料費		755	765	10	1%
経費		1,046	928	-118	-11%
減価償却費		298	303	5	2%
その他医業費用		36	21	-15	-42%
医業外費用		199	173	-26	-13%
特別損失 (D)		4	2	-2	-50%
経常損益 (A-C)		-193	-24	169	-88%
純損益 (A+B)-(C+D)		-196	-14	182	-93%

2 資本的収支

単位: 百万円

資本的収入	143	141	-2	-1%
企業債	4	3	-1	-25%
出資金	134	129	-5	-4%
国庫補助金	5	8	3	60%
その他	0	1	1	皆増
資本的支出	237	214	-23	-10%
建設改良費	81	63	-18	-22%
企業債償還金	156	151	-5	-3%
その他	0	0	0	0%

3 一般会計繰出金(再掲)

単位: 百万円

収益的収支	1,205	1,406	201	17%
資本的収支	134	129	-5	-4%
合 計	1,339	1,535	196	15%

取組状況と内部評価	運営評価委員会における評価
改革プランの収支計画と比較し、医業費用(給与費及び経費等)は低く抑えられている。しかし、医業収益(入院収益、外来収益)の確保がそれ以上に厳しい状況にある。 また、一般会計からの繰入金、国の繰入基準項目の見直し等があったことで改革プランの収支計画と比較して196百万円の増加となった。 結果として、純損益は改革プランの計画数値を上回ることとなった。	●入院収益の確保等により医業収支比率の改善に一層努める必要がある。医師の確保が医業収益の増加につながるよう患者確保や患者単価の見直しなどの診療報酬上の対策が必要である。

平成28年度 奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価

施設名	総合水沢病院
-----	--------

I 数値目標にかかる評価

	平成28年度 目標(A)	平成28年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	19	20	105%	↑	整形外科の医師を1名確保できたことで、20名の常勤医師体制となった。
入院患者数(人)	47,997	46,535	97%	→	
外来患者数(人)	87,480	85,573	98%	→	
平均在院日数(日)	14	14.2	101%	↑	収入確保対策として、診療報酬の「看護必要度加算2」の施設基準を取得したほか、既取得の施設基準についても、医師や看護師等の職員が院外研修会に参加し、継続的に適正な医療の提供が出来るよう努めた。
紹介率(%)	36.0	37.5	104%	↑	
救急車搬送患者数(人)	865	870	101%	↑	
訪問診療件数(件)	396	413	104%	↑	費用縮減策としては、早期退職勧奨など職員数の適正化に努めると共に、奥州市立の病院・診療所で使用する薬品の共同購入も継続して実施した。
訪問看護件数(件)	1,212	1,903	157%	↑	
入院診療単価(円)	36,084	35,518	98%	→	
外来診療単価(円)	9,300	9,443	102%	↑	これらにより、改革プランの数値目標は、概ね達成することが出来た。
病床利用率(%)	90.7	87.9	97%	→	
医業収支比率(%)	83.5	83.1	100%	↑	
経常収支比率(%)	98.0	103.9	106%	↑	
職員給与対医業収支比率(%)	70.2	66.3	94%	↑	
材料費対医業収支比率(%)	18.5	20.3	110%	↓	

【達成度1】※平均在院日数、職員給与対医業収支比率及び材料費対医業収支比率以外の数値目標にかかる達成度

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

【達成度2】※平均在院日数、職員給与対医業収支比率及び材料費対医業収支比率にかかる達成度

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以下の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%を超え110%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が110%以上の場合

II 運営にかかる評価

プラン	取組状況と内部評価
地域医療構想を踏まえた役割の明確化 (プランP16～18)	地域の中核病院である県立胆沢病院を筆頭に患者紹介を行った。また、小児科、内科及び整形外科を中心に県立胆沢病院及び地域の開業医等から紹介患者を受け入れ、プランの目標を上回る紹介率となった。訪問看護ステーションを平成28年4月に設置し、在宅医療を提供する体制強化を図ったことで、プラン目標比157%の訪問看護件数となった。
再編・ネットワーク化 (プランP19～20)	市立医療施設の診療体制の安定化を図るため、前沢診療所への医師の診療応援をはじめ、各市立医療施設への医療スタッフの応援対応を行った。 新市立病院建設にかかる対応として、職員アンケート及び新市立病院建設プラン水沢病院案の作成を行った。
経営の効率化 (プランP21)	医師1名を確保し、20名の常勤医師体制となった。 また、87.9%の高い病床利用率を引き続き確保した。 なお、収入確保及び費用節減にかかる各種対応のほか、患者から選ばれる病院となるための情報発信を充実するため、医療講演会の開催や病院ホームページの改修などを行ったほか、変化する医療ニーズを把握するため、外来及び入院患者を対象とした患者満足度調査を実施した。

Ⅲ 収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位:百万円

区分	年度	28年度			
		プラン	実績	増減	増減率
経常収益 (A)		3,399	3,528	129	4%
医業収益		2,806	2,735	-71	-3%
入院収益		1,732	1,647	-85	-5%
外来収益		814	826	12	1%
その他医業収益		261	262	1	0%
医業外収益		593	782	189	32%
特別利益 (B)		1	11	10	1000%
経常費用 (C)		3,470	3,385	-85	-2%
医業費用		3,362	3,291	-71	-2%
給与費		1,971	1,944	-27	-1%
材料費		521	556	35	7%
経費		693	628	-65	-9%
減価償却費		150	149	-1	-1%
その他医業費用		27	15	-12	-44%
医業外費用		108	94	-14	-13%
特別損失 (D)		3	0	-3	-100%
経常損益 (A-C)		-71	132	203	-286%
純損益 (A+B)-(C+D)		-73	143	216	-296%
累積欠損金		1,724	1,415	-309	-18%

2 資本的収支

単位:百万円

資本的収入	23	25	2	9%
企業債	0	0	0	0%
出資金	23	23	0	0%
国庫補助金	0	2	2	皆増
その他	0	0	0	0%
資本的支出	46	41	-5	-11%
建設改良費	40	35	-5	-13%
企業債償還金	6	6	0	0%
その他	0	0	0	0%

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

収益的収支	702	862	160	23%
資本的収支	23	23	0	0%
合 計	725	885	160	22%

取組状況と内部評価	昨年度に引き続き、収入の確保や費用の節減に努めた結果、一般会計繰入金の基準内による繰出しを加えて、143百万円の純利益を計上し、併せて累積欠損金の削減を図ることが出来た。
-----------	---

Ⅳ 運営評価委員会における評価

- 病床利用率が高いこと、訪問看護数が大幅に増加したこと、職員給与比率が低下したことなどは経営努力の成果として評価できる。
- 小児科、整形外科などの地域の他の医療機関から紹介された患者の受け入れが増加し、紹介率が上昇している点を評価する。
- 訪問看護ステーションの設置により訪問看護件数が大幅に増加し、在宅医療に力を入れている点を評価する。
- 保健所主催の感染症や災害医療の訓練、会議等に積極的に協力している点を評価する。
- 医療機能の差異から一概には比較できないが、同規模の自治体病院と比べ、1病床当たりの医業費用が高く、特に給与費の割合が高くなっている。その要因は、総合水沢病院が診療所など他の医療機関の補完機能を果たしていることが考えられる。
- 病床利用率の向上に努める必要がある。

平成28年度 奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価

施設名	まごころ病院
-----	--------

I 数値目標にかかる評価

	平成28年度 目標(A)	平成28年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	9	9	100%	↑	医師数は9名で、H27体制から変動なし。 患者数については、外来は概ね目標を達成することができた。一方、入院実績は目標数値に比べ471人の減、H27実績と比較しても760人の減となった。 訪問看護については、目標数値を上回る実績となった。 医業収支比率が目標数値を下回った一つの要因として入院収益の減があり、入院患者数と入院診療単価の減が影響している。 給与費、材料費ともに支出金額は目標額を下回っているが、医業収益が減額した分、対収益比率が上がった。
入院患者数(人)	14,235	13,764	97%	→	
外来患者数(人)	53,946	53,505	99%	→	
平均在院日数(日)	20.0	19.3	97%	↑	
紹介率(%)	7.0	7.5	107%	↑	
救急車搬送患者数(人)	160	172	108%	↑	
訪問診療件数(件)	1,400	1,309	94%	→	
訪問看護件数(件)	1,830	1,838	100%	↑	
入院診療単価(円)	29,963	23,487	78%	↓	
外来診療単価(円)	7,775	7,413	95%	→	
病床利用率(%)	81.3	78.6	97%	→	
医業収支比率(%)	78.3	72.1	92%	→	
経常収支比率(%)	91.0	86.9	95%	→	
職員給与対医業収益比率(%)	81.2	83.2	102%	→	
材料費対医業収益比率(%)	11.3	14.5	128%	↓	

【達成度1】※平均在院日数、職員給与対医業収益比率及び材料費対医業収益比率以外の数値目標にかかる達成度

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

【達成度2】※平均在院日数、職員給与対医業収益比率及び材料費対医業収益比率にかかる達成度

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以下の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%を超え110%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が110%以上の場合

II 運営にかかる評価

プラン	取組状況と内部評価
地域医療構想を踏まえた役割の明確化 (プランP16～18)	医療施設が少ない地域の病院として、入院や外来医療に加え、在宅医療まで、住民ニーズに応じた医療の提供を行った。さらには、市立医療施設で唯一の「歯科口腔外科」を有し、一般歯科治療から病院歯科としての役割を果たした。 また、隣接する「健康増進プラザ悠悠館」「ぬくもりの家」とともに、胆沢区における医療・健康・福祉・介護が連携する「達者の里構想」の拠点施設として重要な役割を果たした。具体的な取り組みとして、「達者の里連絡会」、「いさわ健康フェスティバル」「達者の里構成施設研究会」を継続して開催した。 このことなどにより、保健福祉医療の連携あるいは多職種協働がうまく機能し、金ヶ崎を含めた奥州管内で月100人を超える患者さんに在宅医療を提供してた。また、まごころ病院周辺の15の各種高齢者施設の入所者に対しても、外来、入院あるいは訪問診療などで医療面のサポートをした。
再編・ネットワーク化 (プランP19～20)	医療連携室の設置により、県立胆沢病院等との連携強化につながっている。 市立医療施設間での医療スタッフの応援体制(派遣及び受入)により安定的な医療提供に努めた。
経営の効率化 (プランP21)	前年度と同じ医師及び歯科医師9名体制で診療を行ったが、入院患者数が目標を下回り、経営的に厳しい結果となった。 経営の効率化を進めるためには病床利用率の向上が大きなカギになっており、改善が必至となっている。

Ⅲ 収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位:百万円

区分	年度	28年度			
		プラン	実績	増減	増減率
経常収益 (A)		1,100	994	-106	-10%
医業収益		909	795	-114	-13%
入院収益		427	323	-104	-24%
外来収益		419	397	-22	-5%
その他医業収益		63	75	12	19%
医業外収益		191	200	9	5%
特別利益 (B)		0	1	1	皆増
経常費用 (C)		1,209	1,145	-64	-5%
医業費用		1,161	1,102	-59	-5%
給与費		738	709	-29	-4%
材料費		124	116	-8	-6%
経費		210	186	-24	-11%
減価償却費		84	87	3	4%
その他医業費用		5	4	-1	-20%
医業外費用		48	43	-5	-10%
特別損失 (D)		1	1	0	0%
経常損益 (A-C)		-109	-151	-42	39%
純損益 (A+B)-(C+D)		-110	-151	-41	37%
累積欠損金		178	154	-24	-13%

2 資本的収支

単位:百万円

資本的収入	47	50	3	6%
企業債	0	0	0	0%
出資金	47	48	1	2%
国庫補助金	0	3	3	皆増
その他	0	0	0	0%
資本的支出	86	75	-11	-13%
建設改良費	28	17	-11	-39%
企業債償還金	58	58	0	0%
その他	0	0	0	0%

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

収益的収支	214	213	-1	0%
資本的収支	47	48	1	2%
合 計	261	261	0	0%

取組状況と内部評価	外来患者数は概ね目標を達成することができたが、入院患者数は目標に届かなかった。これにより入院収益がプラン目標に比べ大きく減額となった。 今後、地域包括ケア病床導入など、病院経営として収支バランスを考慮した対策が必要となっている。
-----------	--

Ⅳ 運営評価委員会における評価

- 外来患者数は高いレベルを維持している。その一方で入院患者数の落ち込みが大きい。新しく設置された医療連携室を有効に活用していく必要がある。
- 医師・歯科医師一丸となって在宅医療に取り組んでおられる姿勢は、県内外に高評価されている。
- 達者の里構想の拠点施設として、地域医療の充実、地域包括ケアシステムの構築に向けて、県立病院や地域の関連施設等との連携を強化している点を評価する。
- 少ない医療スタッフの中で、夜間外来や訪問診療、医師会関連事業など、患者のニーズに応じた医療提供を実施している点を評価する。
- 歯科口腔外科に取り組まれている点を評価する。

平成28年度 奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価

施設名	前沢診療所
-----	-------

I 数値目標にかかる評価

	平成28年度 目標(A)	平成28年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	1	1	100%	↑	平成26年度から休所となっていたが、平成27年度に設置した医療局が主体となって常勤医師確保策を精力的に進めた結果、平成28年度から常勤医師1名が着任し、同年5月9日から内科外来を再開した。 外来患者数が目標に届かなかったのは、目標設定が過大であったこと、再開所が5月9日であったことから診療日数に1ヶ月余りの不足があることによるものと分析している。 外来診療単価が目標を上回ったのは、検査や栄養指導、心理カウンセリングを積極的に導入した結果である。 訪問看護部門は年間を通じて運営を行ったものの、利用者の減少が続いている。
入院患者数(人)	0	0	#DIV/0!		
外来患者数(人)	17,171	3,991	23%	↓	
入院診療単価(円)	0	0.0	#DIV/0!		
外来診療単価(円)	6,066	7,017	116%	↑	
病床利用率(%)	0.0	0.0	#DIV/0!		
訪問診療件数(件)	0	0.0	#DIV/0!		
訪問看護件数(件)	1,616	1,265	78%	↓	

【達成度】

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

II 運営にかかる評価

プラン	取組状況と内部評価
地域医療構想を踏まえた役割の明確化 (プランP16～18)	前沢診療所は、前沢区を中心にして地域における初期医療、慢性期医療を担う一次医療施設として位置づけられている。平成26年8月から医師不在による休止を余儀なくされてきたが、平成27年4月に設置した医療局が主体となって新たな常勤医師確保に努めた結果、常勤医師1名を所長として迎えることができた。平成28年度は、再開所した初年度であったが、地域に密着した「かかりつけ医」として十分に役割を果たしたと考えている。 また、訪問看護ステーションでは、前沢区及び衣川区を中心とした訪問看護を実施し、在宅医療機能を担った。
再編・ネットワーク化 (プランP19～20)	前沢診療所は、地域住民に対して安全・安心な医療を提供するため、総合水沢病院との間で医師の応援体制を図った。また、安定した検査体制を構築するため、技師についても、まごころ病院及び衣川診療所との間で応援体制を図った。 再開所を機に、総合水沢病院と連携した医事システム、オーダーリングシステムを導入した。これにより、医療情報を共有することが可能になった。
経営の効率化 (プランP21)	平成26年度から休所となっていたが、常勤医師確保策を精力的に進めた結果、平成28年度から常勤医師1名が着任して内科外来の再開を果たすことができた。看護師や技師など、他の医療スタッフについても、再開に伴って必要な人員を確保した。 経費節減の面では、医療材料等を効率的に調達するために医療局が運用している「SPDシステム」を導入することにより、目的に資することができた。また、業務委託契約や賃貸借契約については、医療局が一括発注する方式に順次切り替えており、競争原理に基づく経費節減に効果が現れている。

Ⅲ 収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位:百万円

区分	年度	28年度			
		プラン	実績	増減	増減率
経常収益 (A)		273	218	-55	-20%
医業収益		135	49	-86	-64%
入院収益		0	0	0	0%
外来収益		119	39	-80	-67%
その他医業収益		16	10	-6	-38%
医業外収益		138	169	31	22%
特別利益 (B)		0	0	0	0%
経常費用 (C)		281	226	-55	-20%
医業費用		257	207	-50	-19%
給与費		117	101	-16	-14%
材料費		20	8	-12	-60%
経費		88	67	-21	-24%
減価償却費		30	30	0	0%
その他医業費用		2	1	-1	-50%
医業外費用		24	19	-5	-21%
特別損失 (D)		0	0	0	0%
経常損益 (A-C)		-8	-8	0	0%
純損益 (A+B)-(C+D)		-8	-8	0	0%
累積欠損金		0	-30	-30	皆増

2 資本的収支

単位:百万円

資本的収入	35	36	1	3%
企業債	0	0	0	0%
出資金	35	36	1	3%
国庫補助金	0	0	0	0%
その他	0	0	0	0%
資本的支出	56	55	-1	-2%
建設改良費	2	1	-1	-50%
企業債償還金	54	54	0	0%
その他	0	0	0	0%

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

収益的収支	143	175	32	22%
資本的収支	35	36	1	3%
合 計	178	211	33	19%

取組状況と内部評価	医業収益については、訪問看護の収益に加えて、再開した内科外来の収益を計上することができたが、プランの目標値が過大であったことから大きく下回った。 医業費用については、休止から再開所に向けた準備に伴う相当の支出があったものの、一方で節減に努めたことから、目標値を下回った。 資本的収支については、そのほとんどが企業債の償還に関する収入、支出である。
-----------	--

Ⅳ 運営評価委員会における評価

- 常勤医師を確保して再開したことを評価する。
- プランの値と大きく異なる点が目立つが、鈴木先生の得意とする分野を生かし頑張って貰いたい。
- 訪問看護ステーションで、広範囲に訪問看護を実施し、在宅医療機能を担った点を評価する。
- 経費削減のための取り組みを実施している点を評価する。

平成28年度 奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価

施設名	衣川診療所
-----	-------

I 数値目標にかかる評価

	平成28年度 目標(A)	平成28年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	2	2	100%	↑	臨時の内科医1名を継続雇用し、医師2名体制を維持した。 高齢化、交通弱者のための患者輸送車を継続運行し、延べ7500人の患者を輸送した。
入院患者数(人)	2,183	1,776	81%	↓	
外来患者数(人)	14,080	13,684	97%	→	
入院診療単価(円)	17,951	20,192	112%	↑	
外来診療単価(円)	12,216	12,114	99%	→	
病床利用率(%)	31.5	25.6	81%	↓	
訪問診療件数(件)	36	19	53%	↓	
訪問看護件数(件)	0	0	0%		

【達成度】

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

II 運営にかかる評価

プラン	取組状況と内部評価
地域医療構想を踏まえた役割の明確化 (プランP16～18)	かかりつけ医的な機能を持つべき診療所として、患者の初期症状等を的確に把握して適切な指示や緊急に必要な処置を行う一次医療の役割を担っている。また、県立胆沢病院からの臨床研修医4名を受け入れ、地域医療研修に協力した。 機能分担により、急性期の患者は、救急指定医療機関である県立病院との連携により、受け入れをお願いした。
再編・ネットワーク化 (プランP19～20)	人員不足時には、市立病院からの内科医師や放射線技師の派遣応援をもらったほか、市立病院に臨床検査技師、理学療法士、作業療法士を派遣した。
経営の効率化 (プランP21)	前年度に引き続き医師2名体制(職員1、臨時1)で診療を行った。 事務局3名(職員1、臨時1、嘱託1)については、歯科診療所を兼務し経費節減を図っている。 また、医薬品、医療材料購入契約については医療局に一本化し、施設の維持管理についても可能な限り医療局に一本化し節減を図った。

Ⅲ 収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位:百万円

区分	年度	28年度			
		プラン	実績	増減	増減率
経常収益 (A)		375	372	-3	-1%
医業収益		230	222	-8	-3%
入院収益		39	36	-3	-8%
外来収益		172	166	-6	-3%
その他医業収益		19	20	1	5%
医業外収益		145	150	5	3%
特別利益 (B)		0	0	0	0%
経常費用 (C)		380	363	-17	-4%
医業費用		364	349	-15	-4%
給与費		205	199	-6	-3%
材料費		83	79	-4	-5%
経費		47	41	-6	-13%
減価償却費		28	30	2	7%
その他医業費用		1	0	-1	-100%
医業外費用		16	14	-2	-13%
特別損失 (D)		0	1	1	皆増
経常損益 (A-C)		-5	9	14	-280%
純損益 (A+B)-(C+D)		-5	8	13	-260%
累積欠損金		4	0	-4	-100%

2 資本的収支

単位:百万円

資本的収入	25	19	-6	-24%
企業債	1	1	0	0%
出資金	23	17	-6	-26%
国庫補助金	1	1	0	0%
その他	0	0	0	0%
資本的支出	32	30	-2	-6%
建設改良費	3	5	2	67%
企業債償還金	29	25	-4	-14%
その他	0	0	0	0%

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

収益的収支	117	123	6	5%
資本的収支	23	17	-6	-26%
合 計	140	140	0	0%

取組状況と内部評価	収益的収支については、収益支出の両面においてプランと比較して少額となったが、収支においては概ね良好であり、経常損益として9百万の黒字となった。 資本的収支については、今後、施設の老朽化にともない建設改良費の増加が予想される。 一般会計繰出金についてはプランと同額となった。
-----------	---

Ⅳ 運営評価委員会における評価

- 患者輸送などを積極的にこなすことで、地域の一次診療を守っている点は評価できる。
- 医療資源が乏しい衣川地区において地域医療を提供されている点を評価する。
- 地域の関連施設との連携推進を評価する。
- 研修医の受け入れ等、地域医療に貢献している点を評価する。
- 経費削減のための取り組みを実施している点を評価する。

平成28年度 奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価

施設名	衣川歯科診療所
-----	---------

I 数値目標にかかる評価

	平成28年度 目標(A)	平成28年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	1.4	1.4	100%	↑	歯科予防活動としてPMTC、障害者等への摂食嚥下治療の継続、老人ホーム職員への口腔ケア指導に取り組み等、歯科予防に積極的に取り組んだ。
入院患者数(人)	0	0			
外来患者数(人)	8,403	7,003	83%	↓	
入院診療単価(円)	0	0			
外来診療単価(円)	7,555	7,439	98%	→	
病床利用率(%)	0.0	0.0			
訪問診療件数(件)	12	3	25%	↓	
訪問看護件数(件)	0	0			

【達成度】

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

II 運営にかかる評価

プラン	取組状況と内部評価
地域医療構想を踏まえた役割の明確化 (プランP16～18)	成人歯科健診など住民の予防活動から、幼児の歯科指導や児童生徒の歯磨き指導、虫歯予防運動を地域や学校等と連携して推進した。 岩手医科大学歯学部から臨床研修医4名、地域医療体験実習生4名を受け入れ、地域医療研修に協力した。
再編・ネットワーク化 (プランP19～20)	奥州市歯科医師会・胆沢病院等連携した医師によるNST回診、歯科技工物製作の連携による体制の安定化を図った。
経営の効率化 (プランP21)	医師確保対策により、前所長退職後新たな所長を迎え歯科医師1名体制で引き続き診療を行った。 事務3名(職員1、臨時1、嘱託1)の医科診療所との兼務により人件費の節減を図っている。 なお、医薬品購入契約については医療局に一本化し、施設の維持管理についても可能な限り医療局に一本化し節減を図った。

Ⅲ 収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位:百万円

区分	年度	28年度			
		プラン	実績	増減	増減率
経常収益 (A)		104	95	-9	-9%
医業収益		73	61	-12	-16%
入院収益		0	0	0	0%
外来収益		64	52	-12	-19%
その他医業収益		9	9	0	0%
医業外収益		31	34	3	10%
特別利益 (B)		0	0	0	0%
経常費用 (C)		104	98	-6	-6%
医業費用		101	95	-6	-6%
給与費		79	77	-2	-3%
材料費		7	8	1	14%
経費		8	6	-2	-25%
減価償却費		6	4	-2	-33%
その他医業費用		1	0	-1	-100%
医業外費用		3	3	0	0%
特別損失 (D)		0	0	0	0%
経常損益 (A-C)		0	-3	-3	皆減
純損益 (A+B)-(C+D)		0	-3	-3	皆減
累積欠損金		0	0	0	0%

2 資本的収支

単位:百万円

資本的収入	13	10	-3	-23%
企業債	3	2	-1	-33%
出資金	6	6	0	0%
国庫補助金	4	2	-2	-50%
その他	0	0	0	0%
資本的支出	17	12	-5	-29%
建設改良費	8	3	-5	-63%
企業債償還金	9	9	0	0%
その他	0	0	0	0%

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

収益的収支	29	10	-19	-66%
資本的収支	6	6	0	0%
合 計	35	16	-19	-54%

取組状況と内部評価

新たな所長の業務負担軽減のため退職した前所長から週2回のサポートをいただいたが、プランの目標の患者数を大きく下回り収入目標も達成できなかった。
費用については給与費の節減等も含め減額となったが、経常損益で約3百万円の赤字となった。

Ⅳ 運営評価委員会における評価

- 医療資源が乏しい衣川地区において、歯科医師を確保し継続して歯科医療を提供している点を評価する。
- 医師会や県立病院等の関連機関との事業連携、参加を評価する。
- 研修医の受け入れ等、地域医療に貢献している点を評価する。
- 経費削減のための取り組みを実施している点を評価する。